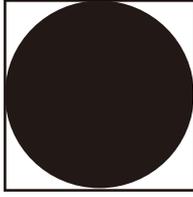


InSEA



公益社団法人 日本美術教育連合 ニュース

No. 174

2025. 7

〒113-0033 東京都文京区本郷2-30-14 文京ビル206号

公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 大坪 圭 輔

ニュース担当 矢澤 聡

E-mail: info@insea-in-japan.or.jp

巻頭言

日本美術教育連合理事・事業局運営委員長 三澤 一実

AIの進化には目を見張る。最近では精度の高い映像も生成され実写と区別できない。そのような状況に私たちは、特に、美術教育に携わる私たちは複雑な感情を抱くだろう。AIは絶対に手仕事を超えられないと思っている方も多いと思う。それも真実だ。しかし、デジタル生成物が日常生活で違和感なく使われ始めた現在、そのアドバンテージは薄れていく。

仕事から、学校現場を見る機会が多い。ここ数年でGIGAスクールが浸透し、教師の役割は子供たちの学びのファシリテーションに変わってきた。ファシリテーションとは物事を促進させる、容易にさせるという意味であり、それを行う人をファシリテーターと言う。教育では子供の主体的な学習に寄り添い学びを促進させる人と言えよう。教師はこれまでの知識を教え授ける一方向の役割から、子供と対話し、問いをみつけさせ、その解決に子供たち自身が思考し、自己決定をしていくためのファシリテーターとなっていくのだ。今まで一方的に話を聞かせていた教師にとっては、子供たちの話を聞き、それをつなげ、子供に問いを見つかけさせ、自ら考えさせていくファシリテーションは思いのほか難しい。

さて、現在、朝鑑賞という取り組みを広めている。朝鑑賞は、朝読書の10分を週に1回、作品を鑑賞する時間に替えたものだ。ファシリテーターは学級担任。美術の教員ではない。取り組みの成果は、小学校では、半年から1年、中学校ではおおよそ2年経過して子供たちの学力が向上した。そして不登校が減ってきた。授業で発言が増えてきた。そしてこの取り組みは、なにより教師自身を鍛えていった。

朝鑑賞は学級経営で行う鑑賞だ。授業でないから評価も不要。子供たちは思い思いの感想を述べる。教師は子供の発言を聞き、受け入れ、その言葉をクラスに返してあげる。また、そこから生まれた新たな問いを子供たちに投げかける。その問いに一人一人の想像力が刺激され、鑑賞と、児童生徒同士、そして教員との相互理解が深まっていく。

AIに対する人間のアドバンテージは身体が生み出す感情である。朝鑑賞は心地よい対話の時間だ。一人ひとりの感情から生まれた生（なま）の言葉は他者の心に突き刺さり、子供たちはいつの間にか美術を、そして人を好きになっていく。

第59回 日本美術教育研究発表会2025 案内

日 時：令和7年（2025）年10月5日（日）9：00－16：30（予定）

場 所：明治学院大学 白金キャンパス 対面開催（海外発表のみオンライン）

*発表者・参加者共に現地参加。ただし、海外からはオンラインによる発表が可能。

主 催：公益社団法人 日本美術教育連合（InSEA-JAPAN）

後 援：文化庁（申請中）

※最新情報は、日本美術教育連合HPに掲載されますので、ご確認ください

第15回 定時総会報告

■令和7（2025）年度第15回定時総会報告■

第8期理事長 大坪圭輔

公益社団法人 日本美術教育連合 令和7（2025）年度 第15回定時総会議事録
対面及びオンラインによるハイブリット方式

- 1 総会開催の決定：令和7（2025）年1月26日開催、令和6（2024）年度第7回理事会
- 2 総会議案及び開催方法の決定：
令和7（2025）年3月2日開催、第8期令和6（2024）年度第8回理事会
令和7（2025）年4月6日開催、第8期令和7（2025）年度第1回理事会
令和7（2025）年4月24日開催、第8期令和7（2025）年度臨時理事会
- 3 総会開催通知及び議案の公開、郵送による総会開催の告知：令和7（2025）年4月7日発行日本美術教育連合ニュース173号に総会開催通知を掲載するとともに、令和7（2025）年4月28日にホームページにて議案を公開し、対面及びオンラインによるハイブリット方式による総会とすることを告知した。
- 4 議決の方法：対面会場での挙手及びオンライン画面での挙手、リアクション表示の目視によって決する。（令和7（2025）年3月2日開催、第8期令和6（2024）年度第8回理事会承認）
- 5 開催日時及び場所：令和6年5月12日午後3時15分～午後4時15分
明治学院大学 白金キャンパス 本館1255教室
- 6 開会の言葉：岩崎仁美事務局長より開会の宣言があった。
- 7 代表理事挨拶：大坪圭輔代表理事より、第8期の事業の実施状況について、総会での議論をお願いするとの挨拶があった。
- 8 総会成立宣言：岩崎仁美事務局長より、会員数228名に対して、委任状による出席72名、対面出席者28、オンライン参加者19名の合計119名となり、定款第18条により、総会が成立した旨説明があり確認された。
- 9 議長選出：定款第16条に基づき、北澤俊之氏が議長に指名された。
- 10 議事録署名者指名：代表理事、議長、監事、小西悟士会員が指名された。
- 11 審議事項
第1号議案 定款改定の件：大坪圭輔理事長より、議案書を基に理事及び監事任期の変更に関する定款の改訂について提案があった。以上について議長は、出席者に質問及び意見を求め、審議の結果、本案は賛成多数により原案通り承認された。
第2号議案 令和6（2024）年度事業報告の件
①第8期活動方針上期報告：大坪圭輔代表理事より、議案書を基に第8期上期の活動状況について、活動方針に照らして提案がなされた。
②理事会等事業運営報告：大坪圭輔代表理事より、議案書を基に、令和6（2024）年度の理事会等事業運営について提案がなされた。
③公益目的事業 1 研究促進事業報告：手塚千尋研究局担当理事より、議案書を基に令和6（2024）

年度の教育研究発表会を中心とする研究局の活動について提案がなされた。

④**公益目的事業 2 国際事業報告**：西村德行国際局担当理事より、議案書を基に令和6（2024）年度の国際会議を中心とする国際局の活動について提案がなされた。

⑤**公益目的事業 3 啓発・普及事業報告**：三澤一実事業局担当理事より、議案書を基に令和6（2024）年度の造形・美術教育力養成講座を中心とする事業局の活動について提案がなされた。

以上について議長は、出席者に質問及び意見を求め、審議の結果、令和6（2024）年度事業報告は、賛成多数により原案通り承認された。

第3号議案 令和6（2024）年度決算及び監査報告の件

①**貸借対照表**：西村德行財務担当理事より、議案書を基に貸借対照表について提案がなされた。

②**正味財産増減計算書**：同財務担当理事より、議案書を基に正味財産増減計算書について提案がなされた。

③**財務諸表に対する注記**：同財務担当理事より、議案書を基に財務諸表に対する注記について提案がなされた。

④**附属証明書**：同財務担当理事より、議案書を基に附属証明書について提案がなされた。

⑤**財産目録**：同財務担当理事より、議案書を基に財産目録について提案がなされた。

⑥**貸借対照表内訳表**：同財務担当理事より、議案書を基に貸借対照表内訳表について提案がなされた。

⑦**正味財産増減計算書内訳表**：同財務担当理事より、議案書を基に正味財産増減計算書内訳表について提案がなされた。

⑧**監査報告**：榎原弘二郎監事より、議案書を基に監査報告がなされた。

以上について議長は、出席者に質問及び意見を求め、審議の結果、令和6（2024）年度決算及び監査報告は、賛成多数により原案通り承認された。

報告事項 1 令和7（2025）年度事業計画の件：大坪圭輔表理事より、議案書を基に令和7（2025）年度理事会等事業運営計画について説明があった。以上の報告に関して、議長は出席者に対し質問及び意見を求めたが、質疑は特になかった。

報告事項 2 令和7（2025）年度収支予算案の件：西村德行財務担当理事より、議案書を基に令和7（2025）年度予算書について報告があった。

以上の報告に関して、議長は出席者に対し質問及び意見を求めたが、質疑は特になかった。

報告事項 3 全日本美術教育会議提言書の件：三澤一実事業局担当理事より、議案書を基に全日本美術教育会議提言書に関する報告があった。

以上の報告に関して、議長は出席者に対し質問及び意見を求めたが、質疑は特になかった。

報告事項 4 論文査読システム導入における寄付募集及び会費値上げの件：大坪圭輔理事長より、議案書を基に会費の値上げに関する理事会議決について報告があった。

以上の報告に関して、議長は出席者に対し質問及び意見を求めたが、質疑は特になかった。

・その他全体を通して会員からの意見聴取：議長は出席者に対して、本会活動全体に関する意見等の有無について諮り、発言等はないことを確認した。

12 **議長解任**：以上をもって北澤俊之議長はすべての議案審議の終了と、議長の解任を宣した。

13 **閉会の言葉**：岩崎仁美事務局より閉会の宣言があり閉会した。

議事録署名人署名捺印は省略

本総会議案書は連合ホームページにて公開

令和6年4月1日から令和7年3月31日

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益			
基本財産受取利息	1,342	51	1,291
受取入会金			
受取入会金	42,000	54,000	△ 12,000
受取会費			
受取正会員会費	1,230,000	1,368,000	△ 138,000
受取賛助会員会費	75,000	65,000	10,000
事業収益			
論集広告料	160,000	160,000	0
論集掲載料	592,000	659,000	△ 67,000
造形美術養成講座	188,065	130,452	57,613
事業収入	195,023	48,317	146,706
研究発表会参加			0
受取補助金等			
受取寄付金	200,000	0	200,000
受取利息	18	0	18
経常収益計	2,683,448	2,484,820	198,628
(2) 経常費用			
事業費			
講師料	80,000	178,000	△ 98,000
旅費交通費	23,896	2,686	21,210
通信運搬費	228,264	159,228	69,036
消耗品費	46,439	2,992	43,447
印刷製本費	1,110,670	998,217	112,453
賃借料	369,510	340,690	28,820
諸謝金	86,800	64,750	22,050
会議費	77,783	2,338	75,445
委託報酬	182,000	203,000	△ 21,000
雑 費	23,503	21,643	1,860
事業費計	2,228,865	1,973,544	255,321
管理費			
会議費	66,012	77,249	△ 11,237
旅費交通費	0	1,582	△ 1,582
通信運搬費	6,770	49,590	△ 42,820
消耗品費	80,746	100,436	△ 19,690
印刷製本費	940	4,440	△ 3,500
賃借料	134,790	146,010	△ 11,220
保険料	0	27,000	△ 27,000
委託報酬	78,000	87,000	△ 9,000
雑 費	12,733	8,010	4,723
管理費計	379,991	501,317	△ 121,326
経常費用計	2,608,856	2,474,861	133,995
当期経常増減額	74,592	9,959	64,633
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	74,592	9,959	64,633
税引前当期一般正味財産増減額	74,592	9,959	64,633
当期一般正味財産増減額	74,592	9,959	64,633
一般正味財産期首残高	3,653,430	3,643,471	9,959
一般正味財産期末残高	3,728,022	3,653,430	74,592
II 正味財産期末残高	3,728,022	3,653,430	74,592

(7) 正味財産増減計算書内訳表

令和6年4月1日から令和7年3月31日

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計				法人会計	内部取引等消去	合 計
	研究促進事業	国際事業	啓発・普及事業	小計			
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
① 基本財産運用益							
基本財産受取利息			671	671	671		1,342
② 受取入会金							
受取入会金	4,200		12,600	16,800	25,200		42,000
③ 受取会費							
受取正会員会費	123,000		369,000	492,000	738,000		1,230,000
受取賛助会員会費	7,500		22,500	30,000	45,000		75,000
④ 事業収益							
論集広告料	160,000			160,000			160,000
論集掲載料	592,000			592,000			592,000
造形美術養成講座			188,065	188,065			188,065
事業収入	195,023			195,023			195,023
⑤ 受取補助金等							
受取寄付金	20,000		60,000	80,000	120,000		200,000
受取利息			9	9	9		18
経常収益計	1,101,723	0	652,845	1,754,568	928,880		2,683,448
(2) 経常費用							
① 事業費							
講師料			80,000	80,000			80,000
旅費交通費			23,896	23,896			23,896
通信運搬費	70,352		157,912	228,264			228,264
消耗品費	46,439			46,439			46,439
印刷製本費	915,420		195,250	1,110,670			1,110,670
賃借料	179,720		189,790	369,510			369,510
諸謝金	76,800		10,000	86,800			86,800
会議費	71,553		6,230	77,783			77,783
委託報酬	104,000		78,000	182,000			182,000
雑 費			23,503	23,503			23,503
事業費計	1,464,284	0	764,581	2,228,865	0		2,228,865
② 管理費							
会議費					66,012		66,012
通信運搬費					6,770		6,770
消耗品費					80,746		80,746
印刷製本費					940		940
賃借料					134,790		134,790
委託報酬					78,000		78,000
雑 費					12,733		12,733
管理費計					379,991		379,991
経常費用計	1,464,284	0	764,581	2,228,865	379,991		2,608,856
当期経常増減額	△ 362,561	0	△ 111,736	△ 474,297	548,889		74,592

(7) 正味財産増減計算書内訳表

令和6年4月1日から令和7年3月31日

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計				法人会計	内部取引等消去	合 計
	研究促進事業	国際事業	啓発・普及事業	小計			
2. 経常外増減の部							
当期経常外増減額	0	0	0	0	0		0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 362,561	0	△ 111,736	△ 474,297	548,889		74,592
税引前当期一般正味財産増減額	△ 362,561	0	△ 111,736	△ 474,297	548,889		74,592
当期一般正味財産増減額	△ 362,561	0	△ 111,736	△ 474,297	548,889		74,592
一般正味財産期首残高	△ 921,944	△ 102,815	△ 2,778,710	△ 3,803,469	7,456,899		3,653,430
一般正味財産期末残高	△ 1,284,505	△ 102,815	△ 2,890,446	△ 4,277,766	8,005,788		3,728,022
II 正味財産期末残高	△ 1,284,505	△ 102,815	△ 2,890,446	△ 4,277,766	8,005,788		3,728,022

収 支 予 算 書

令和7年4月1日から令和8年3月31日

公益社団法人日本美術教育連合

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	1,200	1,200	0	
基本財産受取利息	1,200	1,200	0	
受取入会金	45,000	45,000	0	
受取入会金	45,000	45,000	0	注1
受取会費	1,530,000	1,500,000	30,000	
受取正会員会費	1,380,000	1,350,000	30,000	注2
受取賛助会員会費	150,000	150,000	0	
事業収益	850,000	850,000	0	
受取論集広告料	150,000	150,000	0	
受取論集掲載料	550,000	550,000	0	
造形美術養成講座	150,000	150,000	0	注3
受取補助金等	51,000	51,000	0	
受取寄付金	50,000	50,000	0	
受取利息	1,000	1,000	0	
雑収益	0	0	0	
経常収益計	2,477,200	2,447,200	30,000	
(2) 経常費用				
事業費	1,820,000	1,785,000	35,000	
講師料費	40,000	40,000	0	
消耗品費	5,000	5,000	0	
印刷製本費	995,000	995,000	0	
通信運搬費	145,000	145,000	0	
諸謝金	60,000	60,000	0	
会議費	50,000	50,000	0	
賃借料費	315,000	280,000	35,000	注5
委託報酬	210,000	210,000	0	
管理費	452,000	432,000	20,000	
会議費	165,000	165,000	0	
旅費交通費	10,000	10,000	0	
通信運搬費	10,000	5,000	5,000	注4
賃借料費	135,000	120,000	15,000	注5
消耗品費	2,000	2,000	0	
印刷製本費	5,000	5,000	0	
支払負担金	30,000	30,000	0	
委託報酬	90,000	90,000	0	
雑費	5,000	5,000	0	
経常費用計	2,272,000	2,217,000	55,000	
当期経常増減額	205,200	230,200	△ 25,000	
当期一般正味財産増減額	205,200	230,200	△ 25,000	
一般正味財産期首残高	3,883,630	3,653,430	230,200	
一般正味財産期末残高	4,088,830	3,883,630	205,200	
II 正味財産期末残高	4,088,830	3,883,630	205,200	

注1 新入会員15名として

注2 会員数230名として前年225名

注3 啓発事業部養成講座参加費

注4 改選年のため増額

注5 契約更新年のため増額

研究局より

■第59回 日本美術教育研究発表会2025■ 【第一次案内】

公益社団法人 日本美術教育連合理事 研究局運営委員長 手塚 千尋

本法人は1965年InSEA 東京世界大会の精神「国際理解と美術教育の前進」を基に組織され、今年で59回目の研究大会を迎えます。今年度より対面を基本として大会を開催します。発表者、参加者は原則会場に参集いただきます。今年度も参加者同士の研究交流会を昼休憩の時間帯に設けます。ぜひ対面による研究交流をお楽しみいただければと思います。

本大会では、口頭発表（発表20分+協議5分）を募集します。昨年度に引き続き、英語による発表枠も設けます。海外からの発表者は、オンラインでの発表を選択できます。『日本美術教育研究論集59 2026』へ投稿を検討されている方は、本大会での発表が必須となります。昨年度の投稿規程改定により、投稿資格が発表年度と翌年の2年間まで延長されました。第58回発表者で未投稿の方は、ぜひ日本美術教育研究論集59への投稿をぜひご検討ください。昨年度より段階的に導入されたオンライン投稿システムがいよいよ全面導入されます。詳細は発表会の昼休みに投稿者向け説明会を開催しますのでご参加下さい。参加者同士の研究交流会に参加ご希望の方は、昼食会場にランチをご持参ください（持ち寄りによる“スイーツ交流”も大歓迎です！）尚、大会当日は学内の購買・食堂を利用できないため、ランチボックスの注文を別途Peatixで承ります。

皆さまのご発表、ご参加をお待ちしています。

大会概要

- 開催日時：令和7年（2025）年10月5日（日）9：00～16：30（予定）
- 会場：明治学院大学白金キャンパス 本館（東京都港区白金台1-2-37）
交通アクセス <https://www.meijigakuin.ac.jp/access/>
キャンパス案内 <https://www.meijigakuin.ac.jp/campus/shirokane/#anchor1>
- 開催形態：対面開催（海外発表のみオンライン）
*発表者・参加者共に現地参加。ただし、海外からはオンラインによる発表が可能。
- 参加費等：会員・一般2,000円 学生・院生1,000円
- 研究交流会：無料
- 主催：公益社団法人 日本美術教育連合（InSEA in JAPAN）
- 後援：文化庁（申請中）



参加登録・演題登録

- 参加登録期間：6月23日（月）10：00～9月28日（日）23：00
- 参加登録：<https://peatix.com/group/7506961>（Peatix：日本美術教育連合）
*参加登録にはPeatixのアカウントが必要です。
- 演題登録・発表要旨提出期間：6月23日（月）10：00～8月18日（月）23：00（締切厳守）



□演題登録・発表要旨提出フォーム：<https://business.form-mailer.jp/fms/b7adcda3295976>

- ・「演題登録・提出フォーム」より演題登録をしてください。発表要旨600字も同時に提出してください。
- ・発表要旨の校正は行いません。「最終原稿」としてご提出ください。
- ・英語による発表題目は、必ずネイティブチェックを受けてください。
- ・演題登録の前に、Peatixでの参加登録を済ませてください。チケット番号の入力が必要です。



□発表資格：共同発表者も含め、会員であること。

- ・新規入会希望者は「研究発表（口頭発表）申込書」と共に「入会申込書」を本法人HPから印刷し、本事務局宛てに送信ください。
- ・身近に会員がいない場合は、下記の間合先にご相談下さい。入会時に、入会金3,000円および本年度会費7,000円の郵便振り込みが必要です。

▶入会案内 https://insea-in-japan.or.jp/pdf/nyukai2025_new.pdf

□発表区分：研究論集への投稿区分と連動します。A群・B群・C群より選択してください。

A群：理論・実践研究論文（原著論文）…査読あり、論文投稿時に英文のサマリーが必要

B群：実践報告…査読あり

C群：研究ノート…査読あり

区分	査読者数	英文サマリー	論文頁数	定義
A群	3名	あり	8-12頁	・独創性があり、 <u>学術的価値</u> を有する知見が含まれた論文。 ・研究の背景、目的、用いた研究方法（調査・分析の観点や手法）が明確に述べられ、 <u>結論や意義</u> が考察されている。
B群	2名	なし	8-12頁	・新規的な内容を含む、すぐれた美術教育実践研究の報告。 ・単なる実践の紹介やハウツーではなく、 <u>実践の価値や意義</u> が論じられている。
C群	2名	なし	6-12頁	・美術教育分野における <u>新しい研究テーマ</u> や解決すべき問題を展望的に紹介するもの。 ・原著論文や実践研究報告までは至っていないが、 <u>ある程度まとまった研究や調査等の結果</u> を記述したもの。

・本大会では「公益社団法人日本美術教育連合著作権規定（2024年6月9日施行）」が適用されます。

□発表方式：スライド、動画等を用いたプレゼンテーション

※発表者はPC等の端末を会場に持参してください。

※HDMI接続となりますので必要な方は変換プラグをご持参ください。

□発表スケジュール：9月上旬発行の『連合ニュース175号』および研究局Web（<https://inseajp-research.jimdo.free.com/>）研究発表大会/）上で公開予定。

お問合せ

◆大会・大会会場・論文投稿について

研究局運営委員長 手塚千尋 inseajp.research@gmail.com

◆入会・発表資格について

事務局長 岩崎仁美：iwasaki.hitomi@i.hokkyodai.ac.jp



事業局より

■令和7年度 事業局活動方針■

事業局 三 澤 一 実

■造形美術フォーラム2025（無料・オンライン配信あり）

演題「美術館から見た美術の世界、美術教育の世界」 講師：山村仁志 府中市美術館長

内容：昨年(2024年11月～2025年1月)、東京都美術館で久々に、「懐かしさの系譜」(コレクション展)と「ノスタルジア展」(企画展)を担当しました。この同時開催の2つの展覧会の制作過程と、そこで考えたこと、そして「美術と教育」について話します。「美術と教育」というよりも、美術作品を制作したり鑑賞したりするという経験が、若い人からお年寄りまで(認知症の方を含む)にとって、どのような意味を持つか、それは学芸員として、いつも考えてきた(いる)ことです。(講師より)

※日時/会場：2025年8月24日(日)15:00～16:30/会場：明治学院大学(予定)

■造形・美術教育力養成講座2025（有料 一般3,000円 会員/学生2,000円）

2025年度も「越境し拡張する美術」をテーマとし全3回の連続講座(ワークショップ)を開催します。

第1回 9/27(土)「鑑賞教育の先にあるものを見つめる～個人コレクションを介した対話鑑賞(仮)」

講師：杉浦幸子(武蔵野美術大学 芸術文化学科 教授)

内容：講師に杉浦幸子先生をお招きし、美術のメインストリームの外側で美術を生業として生きてきたコレクター(佐々木敏幸 {明星大学})と共に、所有する作品について実際に触れながら、物として存在する作品だけでは成立し得ない鑑賞という行為の現実について参加者と共に暴いていきます。このことを通じて、美術教育が扱う「表現」と等価に位置付けられる鑑賞教育の可能性について考察していきます。/会場：武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス

第2回 (日時未定)「編む、織るからテキスタイルの表現を考える(仮)」

講師：鈴木純子(武蔵野美術大学 民俗資料室 教授)

内容：テキスタイルは暮らしに密着した造形と言えます。世界各地ではその土地で得られる繊維などを編んだり織ったりしながら布や生活に使う品を作ってきました。講座では、造形表現の視点から、編む、織る行為を解釈し直し、新しい表現方法として簡単なワークショップに取り組みながらテキスタイル表現を考えてみます。(詳細調整中)

第3回 11/22(土)「失敗は創造の母か?—「ヘボコン」が開く美術教育の未来—(仮)」

講師：石川大樹(ヘボコン主催者)

内容：「ヘボコン」とは、技術力の低い人のためのロボット相撲大会であり2024年現在、世界25カ国以上で開催されています。上手/下手、失敗/成功といった二元的な価値を超え、創造的でインクルーシブな学びを体現した試みであり、近年では美術教育分野においても注目され始めています。今回はヘボコン主催者である石川大樹先生による講義とワークショップを通して、「うまくできないこと」にこそ創造の種があることや、多様な表現に寛容になれることを実感することで、「役に立つこと」や「上手にできること」ではない視点から美術/教育のあり方を考えていきたいと思えます。/会場：武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス

※参加方法 事業局の企画はHPにて参加案内を致します。(peatixによる申し込み:「日本美術教育連合」のフォローで毎回のイベント連絡が届きます) 造形・美術教育力養成講座は30名を予定。

■2025年度公益社団法人日本美術教育連合総会記念講演会〈報告〉■

事務局員 山田 空

日時:令和7(2025)年5月11日(日)13:30～15:00 形態:zoomシステムを用いたオンライン方式(無料)

演題:『あそびじゅつ』とは

講師:海老塚耕一氏 美術家、現代美術研究者、多摩美術大学名誉教授

参加者:69名

総会記念講演会では、美術家で現代美術研究者、多摩美術大学名誉教授の海老塚耕一先生から『あそびじゅつ』とはの演題でご講演をいただきました。

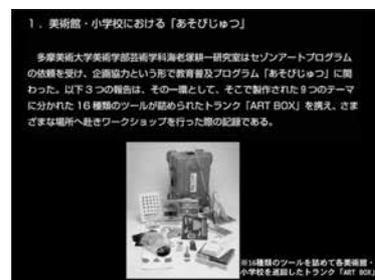
はじめに、「あそびじゅつ」は海老塚氏の「子供の心に美術のある光景をつくりたい。美術を通して多様なものやことを学ぶことの意味とそういうものがもっている未来を確かめたい。」との思いから始まったこと、そしてそこに至るまでのきっかけを話してくださいました。当初、子供たちとの触れ合いの中で美術の可能性を問いかけていたという思いがあった一方で、それまでのワークショップでは「自ら進んで行為をして考え、それが楽しい」という子供には出会うことができなかつたそうです。

しかし、フランス・モンドマルサンの、現代の日本彫刻展のための制作現場(写真下)では、ご自身が制作してる現場に遊びにきた子供たちが、作品の上に乗ったり、匂いを嗅いだりして触れる中で、作品の細部にまで視線を向けていたそうです。そうするうちに、大人同士の制作についてのやり取りを聞いていた子供たちが、「どこが問題になっているのか。」と疑問をもち、最終的には一緒につくるという状態になったそうです。この光景から、子供たちの中には、見ることの楽しさ、考えることの楽しさ、疑問をつくることの楽しさがあったのではないかと考え、「見ることであり、考えることである」ということに思い至ったとのことでした。

帰国後、セゾンアートプログラムの教育普及プログラムにおいて、子供たちが能動的に鑑賞をするためのツールを作成し、全国で鑑賞プログラムを実施されました。そこでのプログラムのいくつかが紹介されました。その一つに、作品を鑑賞するにあたって、様々な素材で作った九つの卵で手に取ることで、素材の違いを知ってもらうためのツールがありました。プログラムでは、子供たちの感受性が養われ、問いも生まれていたそうでしたが、「ツールを使っても見ることに繋がるのではないかと、やはり言葉で考えることが大切なのではないか。」という疑問が生まれたそうです。

その後、多摩美術大学に生涯学習センターが設立され、「あそびじゅつ」がスタートしたとのことでした。ご講演では、魅力的な「あそびじゅつ」の数々が紹介されました。八王子の森で遊び、針葉樹や広葉樹の重さや手触り、匂いを感じ、その後に木片を使ったコラージュのワークショップ。このワークショップでは、森の中で遊ぶ中で、子供たちの言葉の広がりがあったそうです。特に印象的だったのは、布を貼り合わせて旗をつくるワークショップです。つくった旗で遊ぶ子供たちは、平面が立体になることに心を動かすとともに、楽しさと悔しさ、羨ましさ、を感じながら次につくる時間を心に描いており、その時に新たな制作が生まれているとのことでした。自分たちの作品を鑑賞する子供たちは、作品のよさや美しさを感じ取るだけではなく、その根底には自分の表現に対する省察が常にあり、その省察が次の表現につながっていくことが、造形を通した学びなのだとして改めて気付かされました。

最後に、いつも子供たちに伝えている言葉を紹介してくださいました。「大切なのは、うまくできることではなく、失敗を重ねること。」これは海老塚先生の、「思考を支えるもの一つに失敗がある、失敗をしなければ考えない、終わることのない制作に子供たちを導きたい。」との思いからの言葉です。つくること、見ることが問いと思考を生み出す、ということは造形教育の本質あり、子供の造形を支える私たち大人は、その過程を見取り、励ましていく必要があるのだと感じました。そして、造形教育に関わる私たち自身も、海老塚先生がそうであったように、子供たちの姿から問いをもち、考えていくことが大切なのだという示唆もいただくことができました。



国際局より

■ InSEA情報 (InSEA Members' E-news June 2025から) ■

日本美術教育連合理事・国際局運営委員長 西村 德行

InSEA会員には、ほぼ一ヶ月に一度、ニュースがメールで配信されます。この他、世界会議や各地区主催のウェビナーなどが開催される際も、メールで詳しい情報が届きます。今回は最新の「InSEA Members' E-news June 2025」から、いくつかの情報をご紹介します。

□【報告】6月10日(火)7:00～8:30(日本時間)にウェビナー・シンポジウム「文化的伝統、イノベーション、持続可能性」が開催されました。このウェビナーは、国際交流基金グローバル・パートナーシップ助成金の一環として、シェルバーン・クラフト・スクールおよびシェルバーン農場(米国バーモント州)と西栗倉村が共同で実施しました。西栗倉村の森林管理者／アーティスト、建築家／イノベーター、バーモント州シェルバーンの環境アーティスト／環境教育者という4人のパネリストが、伝統、イノベーション、芸術的統合、持続可能性に取り組む農村コミュニティのあり方について検討しました。



InSEA Members' E-news June 2025から

□InSEA世界会議2025が『Unexpected Territories (予期せぬ領域)』をテーマに、チェコ共和国オロモウツで2025年7月21日～25日に開催されます。「芸術教育における永続性、変化する基盤、そして予期せぬ領域」について、芸術教育および関連分野における国際的な対話と経験・専門知識の交換が促進されることを目的としています。

■InSEA世界会議2025ウェブサイト (<https://www.inseaconference.com>) ■

□IMAG: International VISUAL JOURNAL for Art Education第20号のテーマは「コラボレーションとコネクション」です。美術室、コミュニティ、スタジオ、美術館で起こることの多くは、コラボレーションとつながりに関連しています。そして生徒や地域の人々にコラボレーションを求め、集団で問題を提起し、解決し、文化、媒体、範疇を超えたつながりを作ります。互いに学び合い、他者と協力しながらナビゲートすることの重要性を学びます。私たちはどの様に協力し、またどの様なつながりを通して何を学んでいるのか? IMAGの編集は、本連合の佐藤真帆先生が担当されています。第20号のビジュアル・エッセイの締め切りは9月24日(水)です。



大会ロゴ (InSEAホームページから)

事務局より

■事務局便り■

事務局長 岩 崎 仁 美

□会員の異動

〈退会者〉山田一美様 竹美咲様

(これまで連合を支えていただき、まことにありがとうございました)

〈入会者〉佐藤美和様 栗津謙吾様 藪下拓紀様 森本謙様 三木麻郁様 中川弘輝様 菊地虹様

(これからどうぞよろしく願いいたします)

□定時総会「出欠はがき」返送のお礼

令和7(2025)年5月11日(日)に開催された、令和7(2025)年度第15回定時総会に関わる出欠はがきの返送にご協力いただきましてありがとうございました。おかげさまで総会議事録にありますように、無事総会を成立させることができました。ここに改めて会員のみなさまのご協力に感謝申し上げます。

□令和7(2025)年度会費納入のお願い

本年度より年会費が改定されております(7,000円へ改定)

令和7(2025)年度会費 7,000円 を 納入してください。納入期限 2025年8月15日(金)

【郵便振替】

(公社)日本美術教育連合 口座番号00170-1-86036

【ゆうちょ銀行以外の金融機関(ネット銀行を含む)からの送付先】

《銀行名》ゆうちょ銀行《支店番号》019《預金種目》当座《口座番号》0086036

- *同封の振り込み用紙をご利用ください。(恐れ入りますが手数料はご負担ください。)
- *当連合からお送りする振込票には、確認のため次年度分の納入費が記載されています。
- *過去3年以上会費未納の方につきましては、今回ご入金いただけない場合「除名」という対応をとらざるを得ません。ぜひ納入にご協力ください。なお今回のお願いと行き違いですでに納入済みの方には、失礼をお許しく下さい。

□お問い合わせ先：公益社団法人日本美術教育連合 事務局 岩崎仁美

〒068-8642 岩見沢市緑が丘2丁目34-1

北海道教育大学 岩見沢校 芸術・スポーツ文化学科 美術文化専攻 美術教育研究室

Tel & Fax :0126-32-0367 (研究室直通)

E-mail :iwasaki.hitomi@i.hokkyodai.ac.jp